

イベント報告

序. はじめに

2014年4月1日(火)の午後、「数理言語教室 ば」におきまして、小学校新6年生を対象に「統治の仕組み」に関するイベントを担当させて頂きました。本紙は、当該イベントの内容(Ⅰ)、受講学生の反応(Ⅱ)、反省点(Ⅲ)をまとめたものです。今後の御指導や様々な面での触れ合いの御参考になれば幸いです。

I. イベントの内容

今回のイベントでは、「統治の仕組み」を理解してもらおうと考え、以下のような順序で進行致しました。

(1) アニメ「ドラえもん」の中から「のび太の地底国」を鑑賞

概略は以下の通りです。

下校途中に何やら叫んでいるのび太。ドラえもんが話を聞くと、学校がなければ良いといういつもののび太の愚痴だった。空き地で遊ぼうとする二人だが、空き地は近くに建設されるマンションの資材置き場にされてしまい、遊ぶことが出来なくなっていた。仕方なく家に帰る二人だが、のび太は0点の答案を隠さなければならないことを思い出した。何かと難癖をつけて処分を面倒がるのび太にドラえもんは地面の中の穴を探し当てる「どこでもホール」を出した。のび太はダイヤルを操作して穴を探すがなかなか見つからない。それでもやっと見つけた穴に答案を隠そうとすると、その穴は思っていた以上に大きい大洞穴で、隠した気がしないのび太は結局その場に穴を掘って隠してしまう。そのことを聞いたドラえもんが行ってみると、ここはどこか外国の洞窟だと言う。ここをみんなの遊び場にするを思いついた二人は「ミニブルドーザー」と「光りごけ」を出しておき、一旦家に戻る。二人はしずかと出木杉を地底国の住人にするに、翌日の学校で二人にこっそりそのことを話すのび太。だがのび太の間抜けな行動のせいでジャイアン達にも地底のことが知られてしまい、結局みんなで地底に向かうことにする。整地された洞窟内を「おりたたみハウス」などの道具、そして出木杉の指導の下で整備していき、立派な街が完成した。のび太が一番広い家を自分の物とするが、ジャイアンに強引に奪われてしまう。それを憂慮したドラえもんは「ロボ警官と署長バッジ」を出し、のび太にそれを貸す。ロボ警官はバッジをつけた者の命令だけを聞くのだ。これでジャイアンを懲らしめたのび太はみんなの同意の下で首相となり、さらに「のび太国」を掲げ、様々な政策を打ち立てようとするが、現実的なドラえもんはその方針には批判的だ。

のび太は手始めに出木杉に宿題をやってもらい、その答えを見せてもらうよう要請する。出木杉は反対するがロボ警官を従えるのび太に脅され、仕方なく了承する。次にスネ夫の持っているおもちゃをドラえもんの道具でコピーするよう命令し、さらにドラえもん「日曜農業セット」を出してもらい、みんなに強制的に田植え作業を行わせる。のび太は悦に浸りながら昼寝をするが、のび太の横暴ぶりに怒ったみんなはクーデターを惹起、ロボ警官を倒してのび太を追いつめる。隠れたのび太は穴を掘って隠れようとするが、そこから出てきたのは以前に埋めた0点の答案だった。のび太を追いつめるみんなだが、その時地震が発生し、みんなは何とか脱出するものの洞窟は埋まってしまう。みんなに謝るのび太だが持っていた0点の答案をママに見つかってしまい、結局怒られてしまうのであった。

(<http://www.geocities.co.jp/Playtown-Dice/6159/d-26.html> より転載)

このアニメを鑑賞してもらった理由は次の3つです。すなわち、①誰が観ても分かり易いもの(=アニメ)であること、②のび太の国家建設の失敗はどうして起こったのか、を考えてもらうこと、③ジャイアンや出木杉など他の登場人物がのび太の代わりにリーダーになっていた場合はどうなっていたかを考えてもらうこと、です。

(2) パワーポイントによる概略の説明

アニメ「ドラえもん」を鑑賞した後、私から歴史的事実を踏まえた概略の説明をいたしました。これは、先に挙げた理由②「のび太の国家建設の失敗はどうして起こったのか、を考えてもらうこと」を目的として行ったものです。

まず、「のび太国」について一緒に考えてもらいました。仮にジャイアンが「署長バッチ」を付けていた場合、どのような国が建設され、そしてどのような顛末になるのかを話してもらいました。その際に出た意見としては、「のび太より酷いやろ。」(Tくん)、「のび太と違って誰も逆らえないんじゃない？」(Nさん)といったものでした。「ジャイアン国」の特徴として、「暴力によってみんなを無理矢理従わせる」ということが受講学生の皆さんの共通理解として導かれました。そこで「ジャイアン国」の例として、ポル・ポト統治下のカンボジアについて写真を見せて説明しました。暴力を用いて統治をすると惨劇が起こるということを視覚的に理解してもらえたと思います。受講学生の多くの方が目を背けて「うわぁ〜」と言っておられましたが、Nさんは真剣な表情でその写真を見ておられました。

次に、出木杉が「署長バッチ」を付けていた場合、どのような国が建設され、そしてどのような顛末になるのかを話してもらいました。その際に出た意見としては、「いい国ができそう！」(Aさん)、「計画、計画でしんどそう。」(Kくん)、「しずかちゃんが出木杉をほめ過ぎたらのび太が焼きもちやきそう。」(Nさん)といったものでした。話し合いの中では、総じて「出木杉国」はいい国になるだろう、との意見でまとまりました。「出木杉国」はいい国になる、という意見を受け、「出木杉国」の例として、チトー統治下のユーゴスラビアとチトー死去後の内戦について説明しました。1人のリーダーに頼って統治を行うとそのリーダーが亡くなった後には国が混乱・分裂する可能性があること、を説明しました。

以上の2つの例から、統治には「暴力を使わないやり方」と「特定の誰かに頼らないやり方」の双方を兼ね備えた方法が良いという方向で話が進みました。

そこで、みんな(全員)で集まって何もかも決めることが可能かどうかについて、スイスの直接民主制の例を挙げて説明しました。木津川市や兜台というサイズなら全員が集まって何もかも決めることは可能かもしれないけれど、国では非常に多くの人が一堂に会することが物理的には難しいということを理解してもらいました。これを受け、代わりに話し合いをしてくれる人を決め、その人たちに物事を決めてもらうという政治の仕組み(代議制民主主義)を納得してもらいました。

この理解を受け、日本、アメリカ、フランスの政治制度を説明しました。つまり、日本は議院内閣制、アメリカは大統領制、フランスは半大統領制という政治システムです。3か国の仕組みを説明した後、世界で物事を決めるにはどうしているのかも付言しました。国連総会という「人類の議会」らしきものはあるけれど、実際は5大国によって物事が決められているという現実をお話ししました。ここで国連の話を出したのは、なぜ5大国がアメリカ・イギリス・フランス・ロシア・中国なのかを考えてもらいたかったからです。国の大きさや人口の多さで5大国が決まっているという意見が受講学生の皆さんから出ましたが、イギリスと日本を比べると国の大きさも人口も日本の方が上だということを提示すると、「金持ちの国」という意見が出ました。ここで、国同士の争いを例に出して考えてもらいました。A国とB国が喧嘩をした場合、第三者のC国が仲裁に入ることで争いを止めることが可能だということ、小学校で友達同士の喧嘩が生じた場合を例にして説明しました。では、世界中が喧嘩を始めた場合は仲裁に入る国がなく、一体どうなるのかを考えてもらい、第二次世界大戦の際に大規模な空爆を受けたドイツのドレスデンの写真を見て、悲惨な事態が生じることを理解してもらいました。そして5大国は第二次世界大戦で勝った国々であると説明しました。ここで奥出君が「ジャイアン国やな。」と発言したことは非常に鋭いと感じました。

こうした説明を15分ほどかけて行い、続いて3つの政治制度を実際に体験してもらいました。

(3) 3つの政治制度の体験

3つの政治制度の概略を説明し、各制度を実際に体験してもらいました。

・アメリカの制度（大統領制）

まずアメリカの制度を体験してもらいました。大統領には南野先生のみが立候補でしたので、南野先生が就任しました。受講学生の7名の皆さんは議会を構成することにしました。ここでは

・「数理言語教室ばでドラえもんを観る時間を作る」

という法案について議論しました。

はじめ、7名の議会はあっさりこの法案を賛成多数で可決しました。しかし、南野大統領が拒否権を使って議会に差し戻しを行ったため、大統領権限の存在に受講学生の皆さんは初めて気が付いたようでした。南野大統領をどのように納得させるかについて7名で一生懸命議論していました。様々な意見が出ましたが、2時間の授業時間の中でどのように「ドラえもん」を観る時間を作るかを忌憚なく話し合っていました。当初は、

・「勉強時間を60分、『ドラえもん』鑑賞時間を60分ということにし、先に『ドラえもん』を観る」

という案が優勢でしたが、KくんやSさんが「南野大統領が納得しないのではないか？」と発言したことで、勉強時間を先にするという案になりました。そして、Nさんが「ばには勉強しに来てるし。」といった趣旨の発言をしたこと、Tくんが「決められた勉強時間内に課題が終わらなかつたら、その人だけ『ドラえもん』が観れなくなる。」と発言したこと、Aさんが「ずっとじゃなくて、春休みと夏休みと冬休みとGW限定にしよう！」と発言したことで、結局は

・「長期休暇中の授業では、先に90分間勉強をし、後の30分間『ドラえもん』を鑑賞する。但し、皆が早く勉強が終わった場合はその分『ドラえもん』の鑑賞時間を増やす。」

という案で可決され、南野大統領に送付されました。南野大統領は留保付きですが承認をしてくれました。時間の都合もあり、次の制度に移ることを考慮して下さったことだと思います。

アメリカの政治制度を体験したことで、大統領権限の存在を認識し、法案修正ということが必要なのだということを理解してくれたと思います。

・フランスの制度（半大統領制）

続いてフランスの制度を体験してもらいました。今回は、Tくんと南野先生が大統領に立候補し、じゃんけんの結果、南野先生が大統領になりました。南野大統領には、7名の議会の中から1名首相を指名してもらいました。首相にはKくんが指名されました。

ここでは

・「『ドラえもん』鑑賞中にお菓子を食べても良い」

とする法案について話し合われました。まず、南野大統領はこの法案に反対の立場を表明し、小堀首相を通じて反対理由を示しました。その理由は、①部屋が汚れる、②塾は勉強するところ、③お菓子を食べるとメタボになる、の3つでした。この3つの反対理由を論駁するために議論が行われました。反対理由①「部屋を汚さないようにお菓子を食べること」については、様々な食べ方が考案されましたが、良い結論が出ず、結局、「お菓子を食べた後に部屋の掃除をする」という附則をつけることで落ち着きました。反対理由②「塾は勉強するところであるためお菓子を食えるのは不適切」については、既に現時点で休み時間にはお菓子を食べて良いという規則があることを持ち出して、「ドラえもん」の鑑賞時間は休み時間と同義であるとみなして良い、という理由付けを行いました。反対理由③「お菓子を食べるとメタボになる」については、お菓子の量を制限することで決着させました。制限量については、チョコなら3個、スナック系（ポッキーも含む）は5個、ガムなら1個などです。

次に「『ドラえもん』鑑賞中にお菓子を食べても良い」案についての積極的な理由づけを行いました。挙げた理由としては、①お菓子を食べると幸せになる、②お菓子は勉強を捗らせる一助となる、③お菓子を食べるとストレス発散になる、といったものでした。

以上の議論を踏まえ、「『ドラえもん』鑑賞中にお菓子を食べても良い」という案について、採決を行ったとこ

る、賛成多数で可決されました。そして K 首相が南野大統領に採決結果を伝えに行きました。南野大統領は先ほどと同じく留保付きで承認という形になりました。

フランスの制度（半大統領制）は、議員の中から首相が大統領によって指名されるため、首相に指名されなかった議員の人たちは、首相を「大統領の味方」と認識しているようでした。制度を実際にやってみたところ、この制度についての感想が「首相になった人がかわいそう」（T くん・A さん）といったものでした。首相という存在を置くことに対して、少々迂遠なやり方のように感じているように見受けられました。

・日本の制度（議院内閣制）

最後に日本の制度を体験してもらいました。今回は、男性と女性にグループを分けました。男性チームは「南野のお金が第一」というグループ名になり、党首は T くん、女性チームは「ドラえもんをみ隊」という名前になり、党首は N さんになりました。まず、首相を決めるため施政方針を話してもらいました。T 党首、N 党首共に、良い運営をしていく旨の話をしました。そして投票の結果、N 党首が首相となりました。

ここでは

「男性の宿題を半分にする」（男性チーム）

「男女別の平均点で上回ったグループの宿題を半分にする」（女性チーム）

について議論がされました。党首同士の話し合いを行ったところ、

「みんなの宿題を半分にする」

という結論に至り、これが賛成多数で可決されました。これまでの2つの制度からすると、大統領がここでストップをかけると予想していましたが、ストップをかける人がおらず、この法律が実施されるということを説明しました。

この制度に関しては、受講学生の皆さんから「あっさり決まり過ぎ。」（N さん）という声があり、少し不安になる感覚が生じたように見受けられました。

（4）まとめ

3つの政治制度を体験してもらい、その特徴を体感してもらった上で、3つの政治制度の中でどの制度が一番良かったのかを訊いてみました。その結果、全員がアメリカの制度が良いという反応を示しました。

ここから、私が日本の地方自治について話をしようかと思ったのですが、既に開始から2時間近くが経過しており、受講学生の皆さんも疲れているように感じられましたので、休憩ということになりました。

（5）茶道体験

休憩時間に茶道体験をしてもらいました。今回は、薄茶を点てるということを体験してもらいました。柄杓でお湯を汲むことは案外難しいので、柄杓で茶碗にお湯を入れるところから行ってもらいました。

皆さん、お茶を点てるのはほぼ初めてという方が多く、茶筌の扱いに苦労されていましたが、お茶は「おいしい」と言って飲んでくれていました。

【今回のイベントに際して下敷きになっている参考図書】

・全体を通して

建林正彦＝曾我謙悟＝待鳥聡史『比較政治制度論』（有斐閣、2008年）

アレンド・レイプハルト〔粕谷祐子（訳）〕『民主主義対民主主義——多数決型とコンセンサス型の36ヶ国比較研究』（勁草書房、2005年）

・アメリカについて

久保文明（編）『アメリカの政治〔新版〕』（弘文堂、2013年）

砂田一郎『アメリカ大統領の権力——変質するリーダーシップ』（中央公論新社、2004年）

・フランスに関して

大山礼子『フランスの政治制度〔改訂版〕』（東信堂、2013年）

・日本に関して

只野雅人「議院内閣制の基本構造」土井真一(編)『岩波講座 憲法4——変容する統治システム』（岩波書店、2007年）77頁以下

・戦争などの歴史に関して

佐々木雄太『国際政治史——世界戦争の時代から21世紀へ』（名古屋大学出版会、2011年）